

「相談支援専門員」の「ケアマネジメント力」を向上する取り組みへの一考察

- S地域障害者自立支援協議会の事例検討部会の実践研究を通して -

福井県立大学 小林 明子 (1800)

キーワード：相談支援専門員 障害者ケアマネジメント力の向上 地域自立支援協議会

1. 研究目的

障害者自立支援法が開始されて以来、地域における障害のある人のケアマネジメントは、地域の事業所の相談支援専門員がその役割を担っている。対象者となる障害のある人の課題は、三障害、幅広い年齢層、生活・教育・就労・医療等と多岐にわたり、問題は多様化・複雑化しているため、相談支援専門員のケアマネジメント力が問われることになる。しかし、障害者のケアマネージャー（以下ケアマネと略す）である「相談支援専門員」は、3年から5年の実務経験を基本に5日間の研修を受講して比較的簡単に認定される。そこで、「相談支援専門員」の力量を向上させることの必要性を強く認識したS地域自立支援協議会を構成するA市・B市では、関係者が組織を作り、5年前より事例検討会を実施し、3年目にはS地域自立支援協議会の「事例検討部会」として位置づけられた。総合的なケアマネジメント力をつけるために必要な項目を抽出しこれらの力量を高めるために事例検討会を実施している。

2. 研究の視点および方法

事例検討会は、以下の5点に留意して実施している。

- (1) 隔月で事例検討会を開催し、新たなケースの検討に加え、過去のケースのモニタリングを実施し、総合的なケアマネジメント力を高める。
- (2) 事例検討の前には、関係者間でプレ会議を開き、以下を実施することにより、より効果的な事例検討会の実施を目指す。(発表者の準備、専門用語の理解、エコマップと特定アセスメント用紙の導入)
- (3) 年度末に評価を実施する。(参加者のケアマネジメント力向上のために抽出した項目の自己評価のアンケートを用いた)
- (4) S地域で共通の障害者ケアマネジメントのための記録用紙を改善・開発。
- (5) 事例検討会部会の中で抽出された課題を地域自立支援協議会に提案。解決策を検討。さらに、県の自立支援協議会へ提案する。

3. 倫理的配慮

当研究では、事例検討会で取り上げた事例には、本人・家族からの承諾を得、また、当実践を実施している福井県の坂井市・あわら市で構成される坂井地区地域自立支援協議会からは、機関名に関する固有名詞の使用の許可を得ており、倫理的な配慮を行っている。

4. 研究結果（アンケート結果を中心に）

（1）隔月で年5回の事例検討会を実施した。事例検討会においては、行政、事業所、医療、教育、就労等の機関および、福祉・医療・教育の専門的なアドバイスが行えるアドバイザーが参加し、より幅広い視野での事例検討会とする。一回の事例検討会には、必ずプレ会議を実施した。

（2）参加者のケアマネジメント力が向上したかどうかの検証・評価の指標（項目）は、相談支援従事者研修のテキストの知識、技術の中から抽出し、年度末にそれぞれの項目についてのアンケートを実施した。以下は、アンケートの分析結果である。

1) スピアマンの順序相関係数を用いてアンケートの集計結果の分析

5段階の順序尺度と23の自己評価項目は互いに密接に関わり合っていることが分かった。また、23の評価項目のほとんどには、正の相関関係がある。1つの項目において評価が高まればまた別の項目における評価も高まるというように、互いに強め合う関係であることがいえる。

2) 3つの変数は相関関係があることを分析：年代、検討会参加年数、今年度の検討会参加回数の3つの変数と評価項目は正の相関関係であることが分析できる。（R=相関係数 / P=有意確率）(3)検討会参加年数（4段階）検討会参加年数の長い人ほど、マネジメント力と司会力に自信を持っている人が多い。また、検討会への参加回数が多い人ほど、情報収集力・情報整理力・社会関係分析力に自信を持っている人が多い。多職種が1つの会議に参加し、互いのもつ情報や専門知識、それぞれの立場からの視点・意見を共有することで、互いが情報収集・整理力、本人と社会関係を分析する力を鍛え合うことができたのではないかと考えられる。

3) 5つの因子分析結果はこれらの要素が互いに影響を与えあうことを分析：17の評価項目をいくつかの要素の束に集約するために、主因子法で因子分析を行い、バリマックスの回転法を用いた。その結果、固有値が1以上である因子が5つ抽出された。（第1因子は「個別支援計画作成力」 サービス・資源発見力1 サービス・資源発見力2に対応）（第2因子は、「モニタリング力」 継続的チェック力 再アセス力 総合認識力 客観的分析力の値が大きい）（第3因子の「計画の実行力」は、調整力 ネットワーク形成力の値が大きい。）第4因子の「カンファレンス実施力」は、発表力 司会力 記録力の値が大きい。）第5因子の「アセスメント力」は、障害分析力 情報整理力 コミュニケーション能力の値が大きい。）そして、これらの要素は、互いに影響を与え合う関係にある大切な要素であることが分かる。

（3）本研究を通して、障害者ケアマネを行う相談支援事業者が総合的なケアマネジメント力をつけるために必要な項目を整理し、示した。